



70周年記念体育大会 ～たくさんの応援をありがとうございました～

10月4日、天候が気になり、天気予報や空模様とにらめっこしながらではありましたが、体育大会を実施し、最終的には全演技、全競技をやり遂げることができました。前日までの天気予報では、途中中断や中止も危ぶまれる中での開催になりました。当日も少し雨に降られたものの、それをはね飛ばし、1日の演技や競技も浜っ子のまっすぐな心と澄んだまなざしに浜っ子の「本気」をみることができた体育大会になりました。

「徒競走」と「リレー」

1・2年生はゴールまで全力を出し切った徒競走でした。3年生以上の「リレー」は、抜きつ抜かれつの大熱戦のレースが多く、最後まで息が抜けませんでした。素晴らしいバトンパスが何度も見られました。また、途中での不慮の接触などのアクシデントにも負けず、最後まで走りぬく姿がとてもすばしかったです。大きな拍手を送りたいと思います。

「団体競技」

どの学年も工夫を凝らした団体競技でした。力強さやかわいさ、ほほえましさ、作戦の工夫がそれぞれに感じられました。大接戦で子ども達の一喜一憂しながらのがんばりが、次への成長を期待させてくれました。



次に、各学年の「表現」について、それぞれ感想を掲載いたします。

1年生「チャレンジ ～できっこないをやらなくちゃ」

キラッキラのぼんぼんの動きとシャカシャカというひとつになった音がとっても素敵でした。かわいらしさだけでなく、キレのある動きと全力でぼんぼんを振る姿が印象的でした。また、全員が難しいことにも挑戦しようというチャレンジ精神が表われていました。

2年生「2年生！キミに決めた！」

色とりどりの帽子にmonsterボールを持った動きもぴったり！ぴたっとそろったブリッジとV字バランスもばっちり！「成長したぼく達、かっこいいわたし達を見て！見て！」と言わんばかりのこやかな表情に、見ている方も思わずにっこり。大きな拍手を贈っていました。

3年生「浜っ子フラッグ ～心をひとつに～」

3年生の心がひとつ、旗の動きのひとつになったフラッグの動きが決まっていました。ぴんと伸びた腕の先のフラッグを見つめる姿は、どこか誇らしげでした。途中の行進、フラッグをあやつりながらのクロス行進もお見事でした。70周年、ばっちり決まりました。

4年生「はまんちゅ ～響け112人の音魂～」

心地よい太鼓の音と圧巻のかけ声で浜小学校の運動場に一気に沖縄ムードが漂いました。「海よ～」という歌声に合わせた動きと、まっすぐな3年生の心を表すかのような眼の輝きには、ドキッとさせられました。リズムを合わせるのに苦心しましたが、立派にやり遂げました。

5年生「浜ソーラン 2018 ～前進～」

さわやかさとたくましさを感じることができる高校野球のテーマ曲にのった振り付けは見事でした。指を高々と上げる最後のシーンでは、甲子園での数々の激闘に5年生の努力を重ね合わせ、胸がジーンとなりました。ソーランは、5年生ならではの力強い動きに、みんなで前進、みんなで成長していこうという心意気が感じられました。大漁旗の演出もすばらしく、荒波での苦労と大漁の喜びが感じられ、これぞ「浜ソーラン」でした。

6年生「組体操 ～協動～」

さすが浜の6年生でした。練習の時より、さらに一段と引き締まった表情とたくましい動きがひときわ目立っていました。体育大会の練習期間を通して、常に「パワー全開」で、失敗を繰り返しながらも、すべての困難を乗り越え、やりきってくれたことが何より素晴らしかったです。引き締まった静けさの中には、6年生全員の力強い鼓動が感じられ、その目、その動きのひとつひとつに、6年生の「全力」をみることができました。



応援団とみんなの応援態度

応援団の人は、休み時間を割いて練習し、立派な応援ができました。競技している人達の大きな励みになり、曇り空も吹っ飛ばす勢いでした。浜っ子全員での応援歌では、「あか、あか、あか」「しろ、しろ、しろ」の歌声が校内はもちろん、学校周辺、さらには多くの人の心の中にも響きわたったのではないのでしょうか。



本年度の体育大会は、雨天や台風の影響により平日の開催となりました。中には、お勤めの関係などでお子さんの晴れ舞台、活躍する姿を十分にご覧いただけなかったご家庭もあるかと思いますが、学校といたしましても、天候だけでなく、子ども達が集中力を保てる期間内でよりよい状態で演技・競技できること、時間をかけて練習してきた表現をご覧いただくことなど様々な条件を考慮した中での判断となりました。プログラムの変更等もありましたが、このような事情を察していただき、ご理解とご協力をいただきましたことを感謝いたします。PTAの皆様にも係等で大変お世話になりました。ありがとうございました。

体育大会まで、子ども達へのたくさんの励ましをいただきました。子ども達にとって何よりの喜びは、しっかり演技・競技できたという満足感です。そして、その満足感さらに大きくしていくのが周囲の人の声かけです。子ども達はこれまで一生懸命練習してきました。たとえ演技を失敗したとしても、たとえ競技に負けたとしても、子ども達のこれまでのがんばりを認め、いっぱい、いっぱいほめていただけたことかと思えます。